Press Release　　2021 年 12 月 15 日

報道機関各位

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

広報室
（Tel 0798-45-3533）

武庫川女子大学・甲子園会館で
竣工以来初、瓦の全面葺き替えが始まります

1930 年に甲子園ホテルとして建設され、現在は武庫川女子大学建築学部の学舎として使用されている甲子園会館で、2022 年 1 月から竣工以来初の瓦の葺き替えが始まります。名建築の趣を壊さず強度を高めるため、オリジナルの瓦と新しい瓦を市松模様に組み合わせる方法を採用。阪神間モダニズムを彩った織部色（おりべいろ）の屋根がよみがえります。

2022 年から 4 か年計画で実施する大規模改修計画の一環。約 25000 枚の全瓦を葺き替えるほか、外壁タイルの修復など外装全般を改修します。甲子園会館の大規模改修は、1965 年に武庫川学院が国から払下げを受けて以来です。

旧甲子園ホテルのオリジナル瓦は和風の緑釉瓦（りょくゆうかわら）で、周囲の松林に溶け込む「織部色（おりべいろ）」（暗緑色）が特徴です。瓦の一辺に尻剣（しりけん）と呼ばれる出っ張りがあり、この出っ張りを桟（さん）にひっかけて釘で固定しています。桟の下には防水シートが敷かれていますが、近年の暴風雨により、瓦の一部がひび割れたり、持ち上がったりして雨漏り被害の修復に追われるようになっていました。

2007 年に瓦約 6000 枚を新調して一部を葺き替えましたが、「経年変化した日華石の壁となじまず、名建築の雰囲気を損ねかねない」として中断。その後、瓦業者の廃業等で同じ瓦を造ることが難しくなったこともあり、とん挫していました。

旧甲子園ホテルの竣工から 100 年となる 2030 年を前に「次の 100 年に受け継ぐ修復を」と、破損していないオリジナル瓦を生かしつつ、新しい瓦と市松模様に組み合わせる方法を検討。現在の防災瓦に合わせ、オリジナル瓦の一角にステンレス製の板を裏

から取り付けて吹き上がり防止のツメを作り、斜め隣の瓦の角と組んで押さえが強固になるようにしました。また、強度を調べるため、オリジナル瓦を垂直に引っ張ってどの程度の風圧に耐えられるかや、上から力を加えてどの程度の荷重に耐えうるかの実験を繰り返し、安全性を確認しました。

2022 年 1 月から、保管していた約 6000 枚を使用し、まず東棟の東スタジオ上の瓦から葺き替えを始めます。棟瓦や軒瓦、棟飾りなどもいったん解体して撤去し、新しい防水シートと桟を組んでから、瓦を葺く作業に入ります。

建築学部の岡﨑甚幸学部長は「甲子園会館の屋根瓦は学生の実習でも活用しており、葺き替えの工程を間近で見ることができるまたとない機会。有意義な学びになるでしょう」と、岡﨑甚幸学部長。

4 月からは東棟の外壁の修復にも着手。すべての大規模改修が完了するのは 2025 年 12 月の予定です。

この件についてのお問い合わせは
武庫川女子大学広報室　TEL　0798-45-3533
メール　kohos@mukogawa-u.ac.jp
までお願いします。

新しい瓦とオリジナル瓦の組み合わせを検討

学生が実習で制作した屋根瓦を見る岡﨑学部長

角にステンレスのツメをつけたオリジナルの瓦（裏側）

新しい瓦を葺いた屋根（テープで囲んだ部分）